

加藤 茂 他、『芸術の記号論』、勁草書房、1983年、291 p

記号と芸術（加藤 茂）

一 記号とは何か

5 観想の記号論

* 美とは形式 = 内容の合一体

古来より、われわれの直接的経験、主・客未分の体験においてのみ真に観照されうる言語と芸術とは、形式 内容の分離と一致、経験の間接性と直接性という二重の意味で異質（p. 22）

二 現代の記号論

三 芸術記号論

1 芸術記号論とは何か

* 芸術記号論

芸術作品を、なんらかの意味内容を表現したり指示したり伝達したりする、記号ないしシンボルの機能とみなす哲学的な芸術理論（p. 60）

* 芸術記号論の特徴

：芸術の主観的経験（美的体験、関心、趣味など）ではなく、作品と構造と機能それ自体を客観的に分析する（p. 61）

ex. ランガー：芸術作品という構造は人間そのものの感情の観念を普遍的に現示するシンボル形式であり、その機能は論弁的言語では説明できない人間の内面生活一般の直観的認識、人間と人生の洞察である。（p. 62）

：どんな形而上学的理論からも自由な観点に立ち、芸術の諸問題を経験的、学的、理論的に研究する。

：芸術作品を世界の「本質」の顕現と見るような神秘的形而上学と異質なだけでなく、さらに、作品の客観的構造の研究とはいえ、作品のなかの個々のシンボルの美術史的考証学的研究、図像学的研究とも違う。

芸術記号論の関心は、作品の内部の形象は特定の何かのシンボルであるということより、人間経験全体の中で、一つの全体としての作品はどのようにシンボル化するか、あるいはその作品そのもの、何かあるものを指示し表現するそうしたシンボルの構造の、認識論的研究にある。（p. 63）

2 社会的総体を指示する美的記号 ムカジョフスキーの芸術記号論

Cf. ヤン・ムカジョフスキー、『チェコ構造美学論集』、平井 & 千野 訳、せりか書房、

1975

* すべての芸術作品は、次の三要素からなる自律的記号である。（p. 66）

：外的な感覚的シンボルとして機能する「物としての作品」【シンボル】

：集団意識のなかに生じる非物質的対象、つまり「意味」として機能する「美的対象」

【思想あるいは指示】

：意味される事物【指示対象】（p. 67）

3 価値を指示する類像的記号 モリスの美学的記号論

Cf. Ch. W. モリス、『記号理論の基礎（付：美学と記号理論）』、内田 & 小林 訳、勁草書房、1988

4 感情を表現するシンボル形式 ランガーの芸術シンボル論

Cf. S. K. ランガー、『芸術とは何か』、池上 & 矢野 訳、岩波新書、岩波書店、1967

* 美という芸術的価値は、作品そのものに内在するもので、言語の「意味」のように記号自体を超越しない。（p. 89）

Q：シンボルないしサインは、元来、それ自身を超えたなにかを主観的に指示し伝達する間接的機能をはたす媒介であるとするなら 直接的内在的なケンケインたる芸術

は、シンボルと呼べないのではないか？

*シンボル概念の修正 (p. 90)

初期：論弁的シンボル vs 現示的シンボル

修正：本来のシンボル vs 疑似的・芸術的シンボル (> 芸術のなかのシンボル)

芸術的シンボル

：全体としての芸術自体の機能で、単一の不可分なシンボルであり、芸術的価値そのものである「趣意」(表現的定式化としての一つの全体、ゲシュタルト)を現示

芸術のなかのシンボル

：現実の物的素材から区別されるヴァーチャルな要素としての、部分的なシンボルの諸価値。

ex. 「バラ」で「女らしさ」を、「百合」で「貞節」を意味する

「芸術のなかのシンボル」はそれだけで識別できるこの総体的なイメージであるが、それらの有機的全体としての「芸術シンボル」は、文字どおりに言い表そうとすると非合理的なものになってしまう絶対的なイメージである。(p. 91)

5 芸術記号論の利点

：芸術シンボルは、シンボル化されるものを分節化し定式化して、公然と観想でき認識できるようにする。(p. 96)

：芸術シンボルは、人間と人生を非言語的に認識する道具であるだけでなく、実践的な意味を持つ。

知覚困難なものを容易に知覚し、知できぬものを簡単に操作でき、反復困難なものをいつでも反復できるようにしてくれる。(p. 97)

：芸術記号論は、芸術を芸術外的なものに関連づけ、記号という全体のなかに位置づけることができる

：芸術記号論は、芸術の既知の知識を記号として整序することや、他の記号との関連づけを容易にするだけでなく、それによらなければ不可能なこと、すなわち芸術内的な本質の新しい光による照明(証明?)や、記号という類の中での芸術の種差の同一化に役立つだろう。(p. 98)

絵画の解釈と記号論(谷川 渥)

- 一 絵画と言語 前史的展望
 - 1 伝統的模倣論と姉妹芸術論
 - 2 芸術と言語との類比
- 二 記号学
 - 1 記号学的方法の生成
 - 2 記号学的方法の批判
- 三 絵画の記号学
 - 1 絵画の記号学の原理
 - 2 絵画的なものの記号
 - 3 画像の記述
- 四 イコノロジー
 - 1 イコノロジーの生成
 - 2 イコノロジーの方法
 - 3 イコノロジーの批判
- 五 絵画の記号論
 - 1 イコンとしての絵画
 - 2 コードの位相差
 - 3 開かれた経験